

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	イネミズゾウムシ	並	並	果樹	リンゴのキンモンホソガ	少ない	並
	イネドロオイムシ	並	並		リンゴのハダニ類	やや多い	並
	イネゾウムシ	並	並		ニホンナシの黒星病	やや少ない	並
大麦	うどんこ病	少ない	—		ニホンナシのナシヒメシンクイ	並	やや早い
	赤かび病	少ない	並		ニホンナシのハマキムシ類	やや多い	やや早い
大豆	タネバエ	並	並		ニホンナシのハダニ類	並~やや多い	並
	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	やや多い	並		ブドウの灰色かび病	少ない	並
野菜	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	やや多い	並		ブドウのべと病	並	並
	タマネギのべと病	並	—		モモのせん孔細菌病	並~やや少ない	並
	タマネギの白色疫病	少ない	—		モモのモモハモグリガ	少ない	並
	タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ	やや多い	並		花き 球根	チューリップの褐色斑点病	やや多い
果樹	リンゴの黒星病	少ない	並			チューリップの球根腐敗病	やや多い
	リンゴのうどんこ病	並	並	チューリップのモザイク病		多い	—
	リンゴの褐斑病	やや多い	並	チューリップのアブラムシ類		並	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974

情報参考 URL

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.83%で平年（1.08%）並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 34 ページ参照

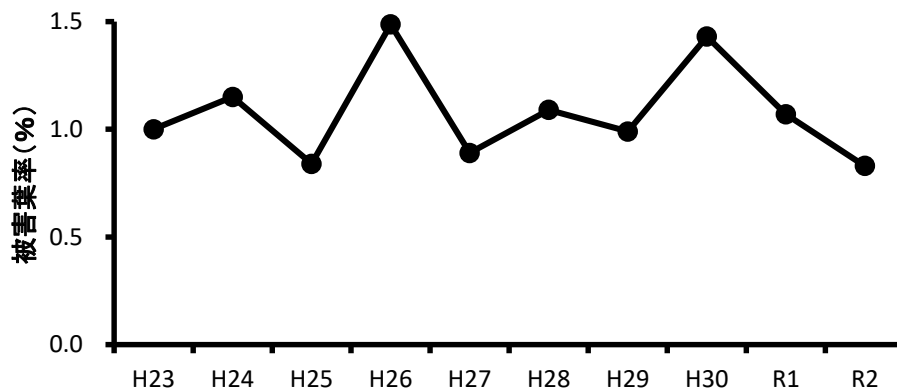


図1 イネミズゾウムシの被害葉率の年次推移(6月5日調査)

2 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

・前年6月20日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で平年（0.01%）並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 35 ページ参照

3 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.03%で平年（0.01%）並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 34 ページ参照

Ⅱ 大 麦

1 うどんこ病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 4月25日の調査では、発病度が0.4で平年（1.5）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 48ページ参照

2 赤かび病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 本年の出穂後10日間の降水量は11.5mmで平年（38.1mm）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 49ページ参照

Ⅲ 大 豆

1 タネバエ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・ 5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ ほ場の排水に努める。
- ・ 防除指針 51、53 ページ参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる4月1半旬～5半旬の誘殺数は34頭で平年（25頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・ 出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草は、は種の一週間程前に刈取る。

・防除指針 51 ページ参照

IV 野菜

1 ネキリムシ類（タマナヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 ・フェロモントラップによる4月1半旬～5半旬の誘殺数は34頭で平年（25頭）よりやや多かった。
- (3) 防除対策
 ・出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
 ・ほ場周辺の雑草は、は種・定植の一週間程前に刈取る。
 ・防除指針 68～132 ページのネキリムシ類の項を参照

2 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 ・これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 ・排水対策を徹底する。
 ・防除指針：102ページ参照

3 タマネギの白色疫病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 ・これまでの発生量は少なかった。
- (3) 防除対策
 ・排水対策を徹底する。
 ・防除指針：102ページ参照

4 タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 ・5月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 ・防除指針：白ねぎ99～100、タマネギ103ページ参照

V 果 樹

1 リンゴの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：138, 141～142, 146～147 ページ参照

2 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・被害枝、一次発生果（葉）そうは見つけ次第せん除し、処分する。
- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：138, 141～142, 146～147 ページ参照

3 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・前年に褐斑病の多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：138, 141～142, 146～147 ページ参照

4 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・キンモンホソガの被害が懸念される場合は、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。
- ・防除指針：138, 143～144, 147～148 ページ参照

5 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：143, 145～146 ページ参照

6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なく、本年3～4月の落葉からの子のう胞子飛散量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように注意し、降雨前防除を実施する。
- ・芽基部病斑、罹病した葉や幼果は、見つけ次第除去し、処分する。
- ・防除指針：150, 152～154, 157 ページ参照

7 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・果樹研究センターにおけるフェロモントラップ調査では、4月の誘殺時期が平年よりもやや早かった。

(3) 防除対策

- ・9月中旬に発生が懸念される場合は、コンフューザーNを設置する。
- ・5月中旬、下旬の防除を確実に実施する。
- ・防除指針：150, 154～155, 158 ページ参照

8 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・主産地では花蕾への食害が平年より多かった。

【早発要因】

- ・主産地では花蕾への食害が4月上旬から見られ、平年より早かった。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、コンフューザーNを設置する。
- ・食害果（花）そう及び葉は、摘み取って処分する。
- ・第一世代幼虫の防除を適期（5月中下旬）に実施する。
- ・防除指針：150, 154～155, 158～159 ページ参照

9 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並～やや多い
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量は、並～やや多かった。

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意

し、適期防除に努める。

- ・防除指針：156 ページ参照

10 ブドウの灰色かび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・開花前から棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、処分する。
- ・発生が多い園地では、フルピカフロアブル 2,000～3,000 倍を散布する。
- ・防除指針：160, 162～163 ページ参照

11 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・5月上旬（展葉5～6枚時）からの薬剤の散布間隔が開き過ぎないように、10日間の防除を徹底する。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、処分する。
- ・発生が多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ 1,000倍に変更し散布する。
- ・防除指針：160, 162～163 ページ参照

12 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：並～やや少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は並～やや少なかった。

(3) 防除対策

- ・春型枝病斑は見つけ次第せん除、処分する。

- ・発生の多い園地では、マイコシールド 1,500～3,000 倍又はバリダシン液剤 5 500 倍を加用散布する。
- ・防除指針：171, 173, 175 ページ参照

1 3 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 【少発要因】
 - ・前年の発生量は少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、コンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：171, 173～175 ページ参照

VI 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 - ・4月20日の予察ほ場（無防除）調査では、発病株率が78.3%で平年（50.7%）よりやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・萌芽時からの発病株を抜き取り、殺菌剤を定期的に散布する。
 - ・防除指針：189 ページ参照

2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 - ・植え付け時の地温がやや高めに推移した。
 - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。
- (3) 防除対策
 - ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・モザイク病発病株が多く確認されている。

(3) 防除対策

・発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。

・防除指針：190、211～212 ページ参照

4 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・4月20日現在の園芸研究所調査では、アブラムシ類の飛来が確認されていないが、5月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

・ほ場周辺の除草対策を徹底する。

・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。

・防除指針：190、211～212 ページ参照

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。 |
|---|

北陸地方 3か月予報

(予報期間 5月から7月)

4月23日

新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

	北陸地方	05月~07月			
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	北陸地方	05月~07月	20	30	50
		05月	20	40	40
		06月	30	30	40
		07月	20	40	40
降水量	北陸地方	05月~07月	20	40	40
		05月	30	40	30
		06月	30	30	40
		07月	20	40	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)